

離床時間増加から QOL 向上を目指した症例

利用者情報 70 歳代

住居：分譲マンション 3 階

病名：大脳皮質基底核変性症（2021.3 月に難病指定を受ける）アルツハイマー型認知症

既往歴：左大腿骨頸部骨折（2015） 骨粗鬆症

介護度：要介護 4 日常生活自立度：B2 認知症高齢者の日常生活自立度：IV

訪問リハ初回介入日：2021/10/8 入院期間：7/6 ~ 9/30

【入院前】

屋内伝い歩き、屋外介助下での杖歩行可能。
夫と買い物や散歩を行うのが日課。

【目標】

Hope：歩けるようになってほしい。（以前のように屋外に出かけたい）

Need：安楽な座位姿勢の提供、離床時間の延長。



①介入初期

車いす移乗時に恐怖心が強く、抵抗する場面あり。全身の筋緊張が高く奇声をあげる場면을認める。
離床時も表情が乏しく、車椅子姿勢も不良。日中もほとんど臥床で入眠されている状態。
24 時間表を作成し、家人と協力して離床時間の延長を図る。

FIM25 点

運動 17 認知 8

車椅子移乗直後でも臀部が前にズれる

数分の座位保持で苦痛な表情と奇声を認める

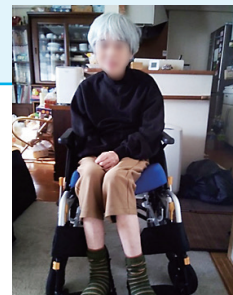


②介入中期

車いす上での体幹前傾運動など支持基底面を徐々に減らしていく座位保持訓練や車いす移乗訓練を実施。身体機能訓練と並行して車椅子のクッションを変更し、日中の離床時間増加を図った。



クッション変更により臀部のずれは消失
自発性は乏しく、車椅子座位でも入眠してしまう
夫より『散歩に連れていきたい』と訴えあり



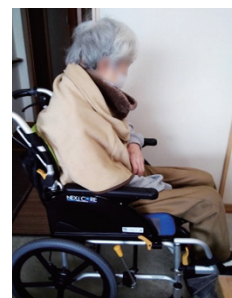
③現在

車椅子のクッション変更を行ったことで不良姿勢が軽減し、日中の活動可能時間が延長。座位での活動を促すため、足底台を導入。かんたき内でも離床時間が増加し、足底台の導入によりレクリエーションの参加も可能な状態となった。

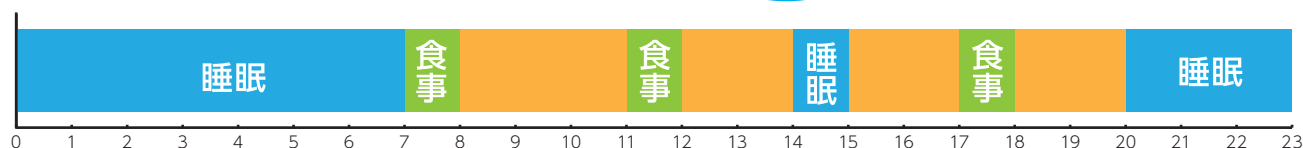


FIM25 点

運動 17 認知 9 (認知面 1 点改善)
足底台を導入し、前傾姿勢が可能!
自然と上肢の運動量も改善
夫との散歩も可能になった



足底台



【まとめ】

現在は、日中に臥床することはほとんどなく、TV 鑑賞や夫との散歩など活動量が増加している。車椅子座位を拒否することもなく、移乗動作も家人介助で容易に可能となった。

離床時の苦痛の軽減により、夫から『表情が明るくなった』『手足を動かすことが多くなった』と喜びの声を認めている。

今後は机上活動の増加やコミュニケーション面へアプローチし、自宅内での活動量をより増加するよう支援を継続する。

